

2月8日(日) 地域の人たちや卒業生など約100人が出席し、川北分校閉校式が行われました



大勢の出席者が、分校の長い歴史を称えました



子どもたちは立派に分校の思い出を読み上げました

私が分校に入学したのは昭和23年。同級生が8人、全校生徒は62人でとてもにぎやかでした。分校は長い間地域のよきところで、分校を中心として川北地区はとても結束力のある地域です。分校の卒業生としても、生まれ育った川北行政区の区長としても、分校の閉校はとても寂しいですが、子どもたちのことを考え、地域のみんで決断しました。



川北行政区長 亀井 長さん(昭和29年卒業)

「今は川北地区を離れて暮らしていますが、分校にお別れをしたくて閉校式に出席しました。(本間さん)」

「閉校式に参加して、懐かしい思い出がたくさんあふれてきました。(谷口さん)」

本間 千恵さん(左) 谷口 ちずさん(右)(平成2年卒業)



今年度限りで川北分校が閉校。
 新学期から本校の岩出山小学校に
 統合されます。
 子どもたちだけでなく、長いあい
 だ、地域の人たちと深いかわりを
 持ち続けてきた川北分校。
 その長い歴史が、静かに閉じられ
 ようとしています。

ありがとう 川北分校

八人の児童とともに 百三十二年の歴史を閉じる

現在、二年生一人、三年生一人、四年生一人、五年生一人、六年生三人、合計八人の児童が、三学級編成、内二学年が複式学級で勉強する川北分校は、明治二十年下野目四軒屋敷に開設された学校を起源に、創立以来多くの子どもたちを育て、巣立たせてきました。

柱の傷、床板の一枚一枚に歴史を感じる古い校舎。緑に囲まれた閑静な環境。昭和三十年代には八十人を超えた児童数も近年は十人前後と減少が続き、この三月三十一日、大崎市最後の分校は、その歴史に幕を下ろします。

分校の閉校は、近年の社会変化と少子化の中、未来を担う子どもたちの教育環境を思う地域の皆さんの総意により決まりました。四月からは本校岩出山小学校に統合され、五人の在校生は約五キロメートル離れた本校へ通うこととなります。

分校最後の児童たちから

「分校は全員合わせて8人です。本校に行っても川北分校を忘れません。」
 「本校に行ってもいろいろな勉強をがんばりたいです。」
 「分校が閉校してしまうと考えると悲しいです。122年続いた歴史も閉じるんだなあと思います。分校にはいっぱい思い出があります。」
 「分校行事の川北まつりなどは、みんな心を一つにしてがんばってきました。」
 「いろいろな所で発表してきた一輪車は、体育の時間や休み時間を使ってひとりひとり新しい技などに挑戦したりしてがんばってきました。」
 「分校は人数が少なかったけど、川北まつりや、春になると咲く校庭の桜など、楽しい思い出がたくさんできました。」
 「分校の周りには自然がいっぱいあります。裏には安沢つつみという沼があり、その横を流れる小川で、よくザリガニ釣りをしました。」
 「今まで通っていた川北分校が閉校になるのは残念です。思い出をありがとう。」



川北分校 たくさんの思い出をありがとう!

子どもたちの声が毎日聞こえていた川北分校は、地域の象徴的な存在として、地域とともに長い歴史を刻んできました。開校以来百三十二年、地域社会、人々とのかわりが色濃く残る校史に、最後の児童となった八人が最終章を書き込むこととなります。

【川北分校沿革】

- 明治20年 下野目四軒屋敷に学校が開設
- 明治31年 下野目尋常高等学校川北分校
- 大正3年 川北分校所設置
- 大正13年 校舎、現在地に移転
- 昭和16年 西大崎国民学校川北分校となる
- 昭和30年 岩出山町立岩出山小学校川北分校となる
- 昭和32年 一教室増築し三学級となる
- 昭和51年 体育室増築
- 平成9年 岩出山町内小中学校給食開始(センター方式)
- 平成12年 インターネット回線接続
- 平成18年 校名が大崎市立岩出山小学校川北分校となる

122年の歴史に幕。

岩出山小学校
川北分校が閉校

